

再構築 少子高齢化 中活 安全安心

さんじょうしちゆうしんしがいち

三条市中心市街地地区

(新潟県三条市)

- 計画期間 平成27年度～令和元年度
- 面積 513.6ha
- 交付対象事業費 5,820.4百万円
- 市人口 94,146人

ポイント

次代まで住み継がれ、安全安心で健幸に暮らせる
賑わいあるまちづくり

目標

- ①定住の促進
- ②にぎわいの場の再生
- ③防災・減災のまちづくり

指標

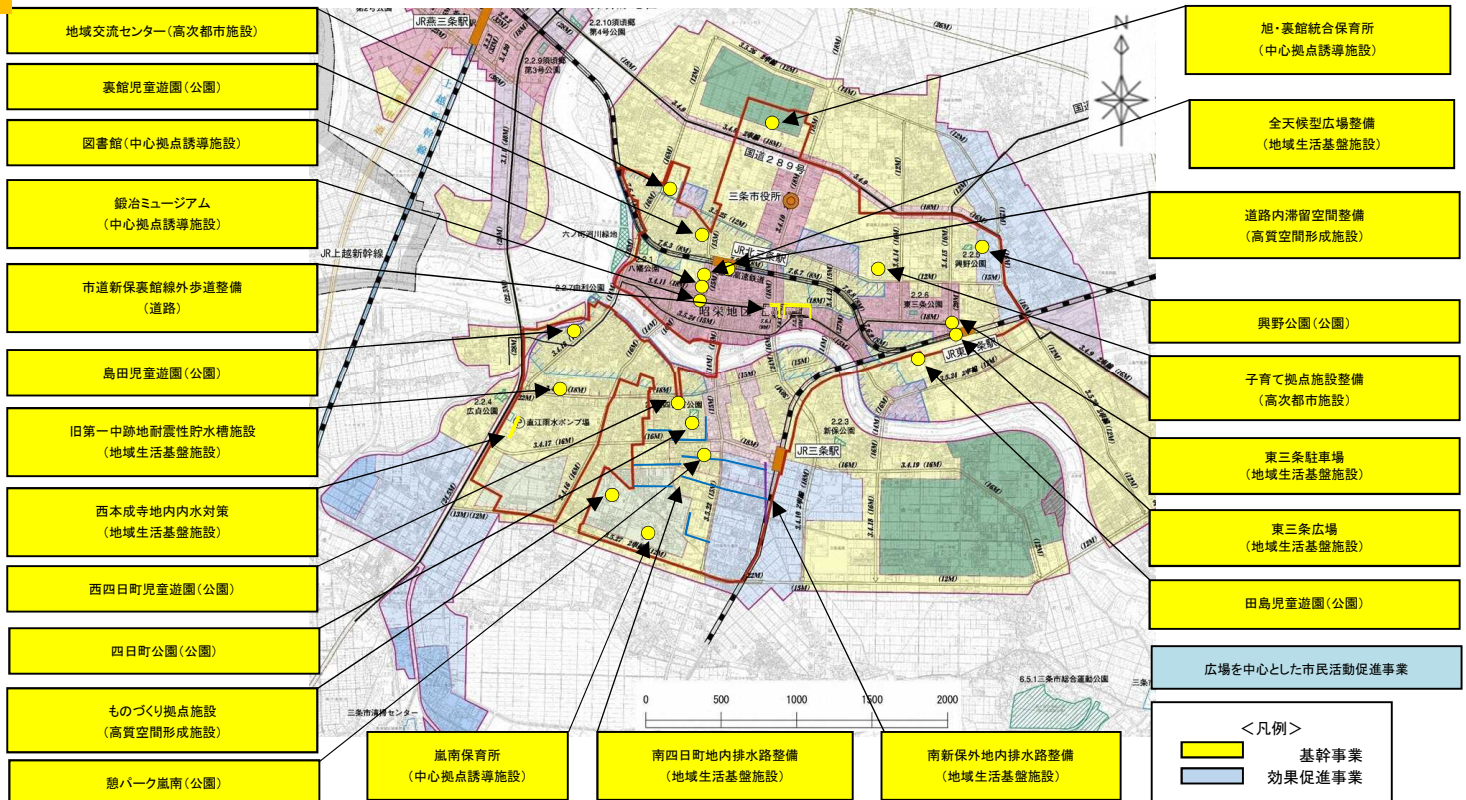
賑わいの再生、河川整備等による浸水被害の軽減について市民満足度の向上等を指標とした。

幼児教育と小・中学校教育の円滑な接続の推進(市民満足度調査)	3,050 ポイント (H26)	→	3,150 ポイント (H30)
中心市街地の賑わいの再生(市民満足度調査)	2,352 ポイント (H26)	→	2,540 ポイント (H30)
水害対策の強化(市民満足度調査)	2,857 ポイント (H26)	→	3,131 ポイント (H30)
中心市街地の賑わいの再生(まちなかの1日あたりの平均歩行者数)	775人 (H26)	→	915人 (R1)
中心市街地の賑わいの再生(計画区域内の文化・交流利用者数)	278,572人 (H26)	→	282,997人 (R1)

事業内容

基幹事業 (5,820.4百万円)

→ 道路(歩道整備 438m)、公園整備(興野公園ほか6箇所)、全天候型広場整備(1,756㎡)、旧第一中学校跡地耐震性貯水槽施設整備、排水路整備(3,350m)、保育所整備(2箇所)、子育て拠点施設整備、地域交流センター整備、ものづくり拠点施設(昇降機設置)など



地区の現況と課題

現況

中心市街地の高齢化率が高く、商業施設の郊外移転が進み、空き店舗の増加や居住人口の減少など空洞化が進んでいるため、歩行を促して病気予防につなげる事業「スマートウエルネス三条」や通りを歩行者天国にして開く市民主体の市場「三条マルシェ」、車の最高速度を30キロに規制した地域「ゾーン30」等の事業を実施している。

また、近年頻発する豪雨により依然として浸水被害が絶えないことから、緊急的な浸水被害の軽減が求められている。

課題

市中心部での人口が減少し、郊外で人口が増加しているため、生産年齢層の中核となる子育て世代に対しては、安心して子どもたちを任せられる教育環境が必要である。

三条マルシェが集客と空き店舗への新規出店に一定の効果を示す一方、日常的な賑わいの創出に至っていないため、中心市街地の核となる公共施設の整備や、市民の誰もが生涯にわたり健康で幸せに暮らし続けるため、出掛けたくなるような魅力がまちのいたるところに備わっていることと併せ、外出を容易にし、歩きやすい環境を整えることが必要である。

公共下水道雨水整備などの進捗が遅れており、近年頻発する豪雨により、安心して暮らし続けられる居住環境に至っておらず、緊急的な浸水被害の軽減が求められている。



飲食などの出店と各種イベントなどを行う三条マルシェ



平成26年7月9日大雨による道路冠水(南四日町地内)



全天候型広場(平成28年度グッドデザイン賞を受賞)

計画策定プロセス

歩きたくなる道を考える市民会議

スマートウエルネスの考え方にに基づき、歩きやすい道の形や街の形を考える市民会議を平成25年11月～26年1月の4回にわたり開催した。

市民会議では、外に出て歩くためには「歩いて行った先で誰と会い、何ができるか」が重要との意見が出され、その中で気兼ねな飲食のニーズが高かった。



歩きたくなる道を考える市民会議